

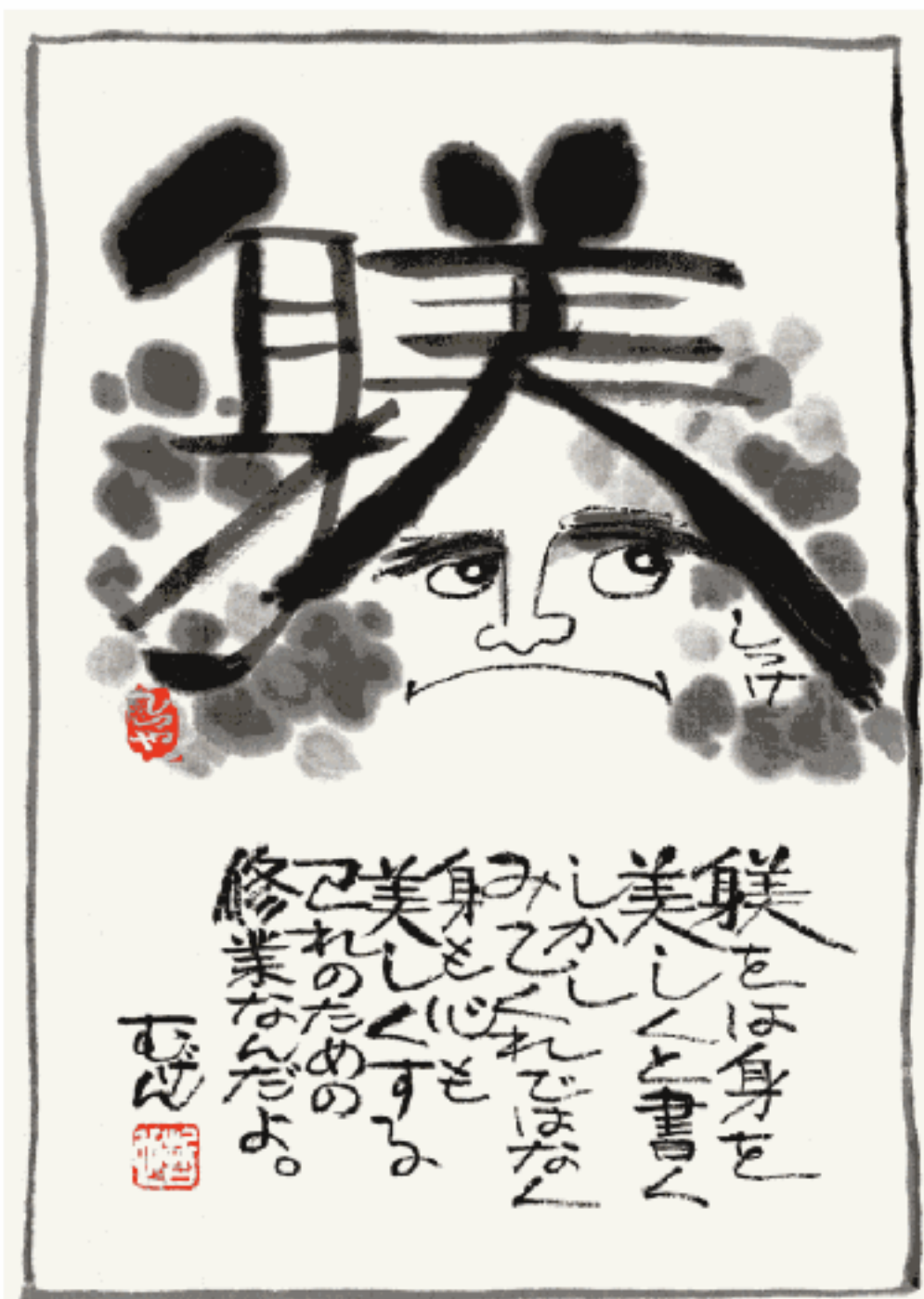
今月の写真



君ヶ浜の波しぶき



雪でけやきもお化粧



新年もはやひと月が過ぎ去ろうとしています。今年の冬は気温が低く、ここ千葉県でも2回の積雪がありました。まだ、我が家の北側は一面の雪となっています。

さて、元日のこと、実業団のニューイヤー駅伝を見ようとスイッチをいれた途端、仰天する言葉が耳に飛び込んできました。「重川材木店がきました！」というアナウンサーの実況です。あの重川さんが駅伝チームを持ち、最高峰であるこの駅伝に出場しているなんて思いもありませんでした。重川さんといえば、新潟で数奇屋建築を手がける名門であり、テレビ東京の「大工王選手権」に出場し優勝もしています。最近3年ほどお会いしていないので、尊敬する重川さんを訪ねたい気持ちになりました。それにしても「選手全員が大工職人」というプロフィールには笑ってしまいました。2日と3日は箱根駅伝を見なければ私は新しい一年がスタートしたという実感が湧かないのです。もし、7区あの脱水症状によるトラブルがなければ順天堂大が優勝だったかもしれません。それはやはり勝手な仮定「IF」でありいつか何が起こるかわからないのが私たちの日常です。駅伝の醍醐味は中継所でナンバーがコールされるまでの緊張感、タスキを貰う、渡すその瞬間ではないでしょうか。言葉ではいい表せないほどの緊張と達成感があります。もっとも、私たちは結果よりもレースそのものを楽しんでいるだけなんです。今年、市町村合併の関係でいつも参加しているレースがなくなりました。逆に新たな駅伝も始まるようです。

毎日の生活でもスポーツでも思うような展開にならないのが日常かも知れませんが、とにかく前に進んで行く元気だけは持ち続けていこうと思います。鈍足ですが今年もどうぞよろしくお祈りします。



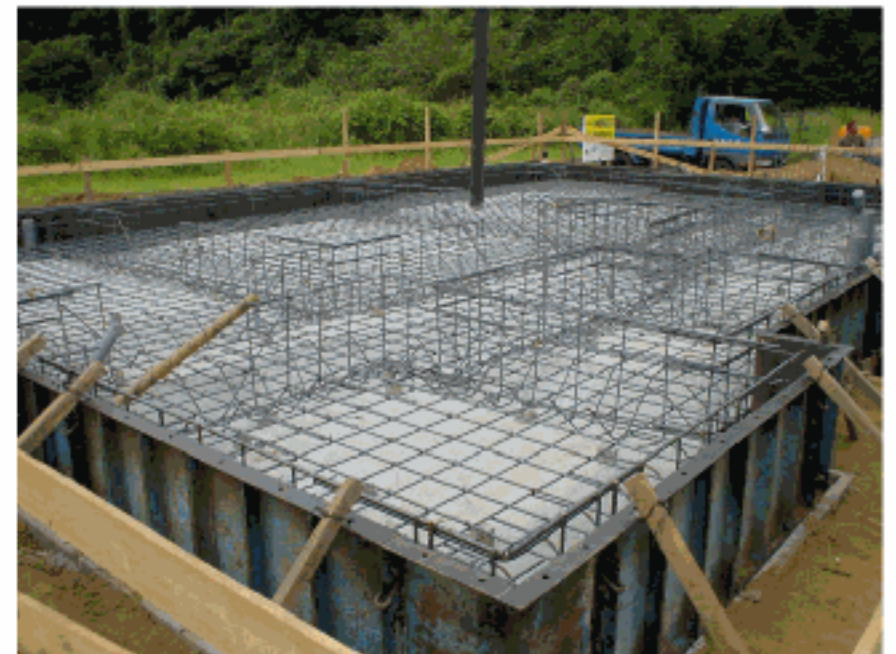
基礎について知ろう

今回は地味な部分、基礎について簡単にご説明したいと思います。

鉄筋コンクリートの基礎は大きくふたつに分類されます。布基礎とベタ基礎がそれです。布基礎は柱が建つ部分の通りで荷重を支えます。ベタ基礎は建物の地面に触れる部分全てで建物の荷重を支えようとする基礎です。家の下にコンクリートの皿を作って重さを分散させようというものです。

写真(下・右)のように布基礎とベタ基礎を複合させた形状の基礎もあります。

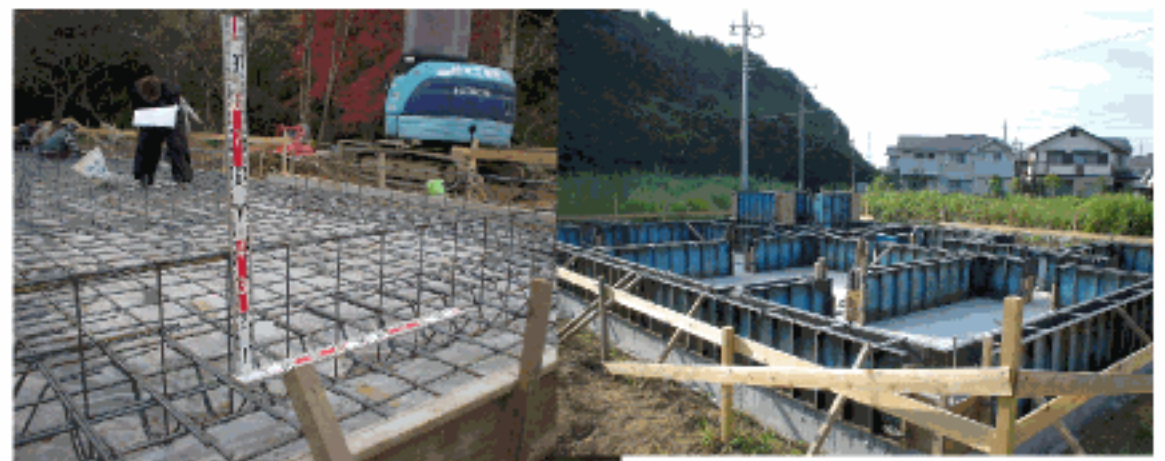
しかし、ベタ基礎であれば安心だ、と言い切れるものではなく、地盤調査のデータと敷地の高低さなどを参考にして決められるべきです。地盤によっては杭が必要になる場合もあります。



上のように鉄筋を組みます。土間のコンクリートを打って、枠を組み今度は立ち上がりのコンクリートを打ちます



地盤を掘削し、砕石を敷きます。上に湿気が上がらないように、シートをかけて捨てコンを打ちます。



しばらく放置した後、型枠を剥して完成です。アンカーボルトなどは、立ち上がりをつつ前にセットしておきます。



鉄筋コンクリート

フランスの植木職人が割れやすいコンクリートの鉢に針金を通すと強くなることを発見したことから始まったといわれています。コンクリートはセメントと砂利、砂、最後に水を混ぜて作ります。コンクリートは圧縮に強いけれども引張りには弱い。ため薄い部分ではすぐに割れてしまいます。ところが、鉄筋を入れると割れにくくなります。なぜかという、コンクリートとは逆に鉄筋は、引張りには強いからです。しかも、コンクリートも鉄も温度変化によって収縮と膨張が起こりますがどちらもほぼ同じ熱膨張率なんです。だから、剥がれにくいのです。押されたらコンクリートががんばる、引っ張られたら鉄筋ががんばる、曲げられたら一緒にがんばる、というわけで互いの弱いところを補ってくれるベストパートナーなんです。

発行者 ご連絡先  
秋葉建設株式会社 秋葉 忠夫  
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1  
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824  
Eメール master@woody-akiba.com  
HP URL http://woody-akiba.com/  
ご意見ご感想お待ちしております。